

令和5年度第4回滝沢市上下水道事業経営審議会議事録

I 日 時 令和5年12月6日(水) 13時00分～16時20分

II 場 所 滝沢市役所分庁舎 第6会議室

III 出席者 上下水道経営審議会委員 出席8名

【滝沢市上下水道事業経営審議会委員】

山田一裕委員、田村武委員、山口孝委員、田村康樹委員、齋藤誠司委員、関晴恵委員、熊谷稔委員、新田育夫委員(※欠席1名 赤塚貴史委員)

【滝沢市】

滝沢市長 武田哲

上下水道部 部長 及川竜悦

水道総務課 課長 小林純子、総括主査 高橋竜也、主査 佐藤克也、
主任 関向洵樹

水道整備課 課長 角掛雄一、総括主査 長谷川唯倫、総括主査 林野和恵

下水道課 課長 村上斉、主幹 五十嵐淳、副主幹 伊藤圭晃、総括主査 黒澤滋

IV 次 第

1 開会

2 挨拶

市長挨拶、委員及び事務局の紹介

3 議事録署名人の指名

会長より、議事録署名人に関晴恵委員、熊谷稔委員を指名した。

4 議事

【下水道事業】

(1) 報告事項

以下のア～ウの報告事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

ア 滝沢市下水道事業経営戦略の改正について(滝沢市下水道事業経営戦略<第2版>、滝沢市汚水処理施設概成アクションプラン長期的整備・運営管理計画<第2版>)

【山田会長】今回この第2版の2つの資料について、本日委員の皆様からご意見をいただいて、若干の修正をしたものがもう完成版として公開されるという意味

でよいか。

【黒澤総括主査】この後、答申いただいた後更新となろうかと思う。

【山田会長】中身について調整が図られるのは、本日で終わりか。

【黒澤総括主査】一応今回でまとめたい。

【山田会長】今まで委員の皆様からいろいろご意見いただいたので、大筋は特に内容の変更はないかとは思っているので、確認を含め、委員の皆様からは何かご発言いただきたい。

【山田会長】概成アクションプランA3版資料の2026年度の下水道の普及率は79.4%とあるが、これは前のページに示されている未整備地区の整備が2024年度の時点で計画通りに進んだ場合に、そこで達成される普及率ということか。

【黒澤総括主査】はい。

【山田会長】だからもし今後、計画上、下水道の整備地域が広がらない場合は、下水道の普及率はここで一応ストップということになるのか。

【黒澤総括主査】はい。

【齋藤委員】修正前は、令和9年度から赤字が生じるため使用料の検証をしたいということを委員の皆様にお知らせしたとのことだが、その件についてはどうなっているのか。

【黒澤総括主査】流域下水道の広域化に関して、予算の積み立て方を今一度チェックしたところ、今までの説明の中で見込みが誤っていた部分があり、今回改めて修正させていただいた。

【齋藤委員】将来赤字の話がなくなったということで捉えてよいか。最初から違和感があったが、将来の赤字に対して今、使用料を見直すやり方が一般的かどうか。

【上下水道部長】今年度4回、審議会を開き、当初の段階で令和9年度以降、赤字が予測され、それをもとに、使用料の改定を段階的に説明した。令和4年度決算が正式に出たという部分で、改めて立ち返ったときに、やはり下水道の使用料に関しては、まず、基本的には決算をベースに今後どのように展開されるかという部分が一番重要かというところで、改めて、数字を検討、検証した。前回、平成29年に審議いただき、平成30年から新しい使用料で皆さんに負担をお願いしているところだが、その時点で経営自体は、収支均衡ということで、赤字ではない。ただし、委員さん方からの意見で、銀行から安定的に融資し手持ちの資金をいくらか確保し有事に備えるということを提言いただき、平成30年からの値上げということで、実施させていただいた。私どもも、早い段階で、この数年間の経営努力で、かなり経営が改善してるというご説明できればよかったが、今回先ほど説明にもあったが、ここまでの4年間の経営の結果のところを少し検証するのが不足していた。まずは、経営企画分析表の流動比率が平成30年からの数字をみると、48.24%から着実に非常に改善しているというところが、まず分析が不足していた。合わせて、有事の際の手持ち

資金について、令和4年度決算は5億を超えており、令和元年度から2億3,000万というものに対して2億7,000万と毎年増えており、経営が改善されている。決算のところで説明する予定だったが、実は令和3年度の時点で一旦この予定現金預金が増え続けていたのが減ったのかなというところで、少し経営状況が悪化しているのかと見えたところがあった。その部分については担当から説明する。

【関向主任】下水道資料3下水道事業会計決算審査調書、2ページのキャッシュ・フロー計算書をご覧いただきたい。令和3年度と令和4年度の現金の動きがこちらで示されている。令和3年度の資金の増減として、下から3行目「4資金の増加額」にマイナス500万とあり、理由として令和3年度に契約した雨水の建設改良工事に係る前払金が8,170万円支出されたことにより、実際の事業の完成自体は令和4年度に繰り越し完了したものだが、前払金だけがここで支出されたという、ちょっとイレギュラーな点がある。前払金の8,170万円が翌年の支払いとなった場合、大体7,000万円から8,000万円程の資金の増となるので、令和4年度の資金の増加額を見ると2億3,000万円程度増加しているが、その分が令和4年度にならされ支出されると、年間大体6,000万円～7,000万円程度の資金の増加が今後見込まれる。また、令和5年度の事業の実施状況についても、令和3年度、令和4年度と同程度の工事費なので、同程度の資金の増加が見込まれ今後同じように推移していくと思われる。

【上下水道部長】決算の説明の前に、部分的に説明させていただいた。令和3年度時点で行った資金の読み、そして今年度最初の段階から、将来的に赤字という部分で、使用料の改定をお願いしなければならないというのを説明し、委員の皆さんにそれについてはご理解をということをお願いしたところだった。若干こういった経営の部分の精査が不足していたので、委員の方からもあったように、今の部分をみたところ、一つは費用の改定という部分については、今年度まだ早いのかなと考えざるを得ない。流域下水道の負担金については、今までの毎年増加している額を見込額として投資財政計画の中で見込んでいたが、流域下水道の方からもその情報があり、見込んでいた額に対して1年当たり5,000万円程度負担金についても減額されるということで、これもとても経営が改善される要素としてある。不明水の対策について、令和8年度までに改築計画を設定してした上で、令和9年度から改築変更するという以前に、令和8年までに今回の経営戦略の期間の中でも、不明水対策は、当然投資が必要ということで意見いただいていた。調査に伴って発生する工事があるが、不明水対策についても、補助金等を投入しても実施可能ということで、不明水対策にあたる部分の事業費投資については、使用料を全額当てての対応でなくても、令和8年度までに実施できるというのもあり、大幅に見込みの経営状況が改善されるということを報告する。

【齋藤委員】結果的には将来赤字はなしということになったが、推計値を審議会で審議するということは中々難しいところがある。赤字が発生しない状態が一番

いいと思うが、4年先5年先の赤字を見越して値上げをしたいというのは、無理があると思う。推計値や値上げを否定するものではないが、審議会としては、答申しづらい事項だったと思うので、今後については、その辺を検討してから審議会に提案していただけると助かる。

【山田会長】経営上、不明水対策と接続率の問題というのは課題であると考え。計画通りに進まなくても、着実に何とか接続を進めていくことは止めてはいけないと思う。今まで通りでは進まなかったところについては、方法を変えるような提案を今後の計画に示してもらい、次回期待しているのでよろしくお願ひしたい。

イ 令和4年度滝沢市下水道事業会計決算について（下水道資料1～4）

【齋藤委員】雨水排水について、大釜の工事がどのようなもので、どういう風に完了したか。

【五十嵐主幹】大釜の雨水排水事業については、令和3年度に雨水事業の計画を見直し、大釜地区の排水を個別に雫石川に排出する計画であったものを大釜地区の排水計画を1つの排水区に見直し、改良区の排水路を改修して雫石川に排出する計画で事業を進めた。改良区の水路改修だけではのめなくなるため、新たに国道46号の下に1,500ミリの口径でバイパス管を増やす計画とし、推進により敷設することとして工事を実施した。着手したものの国道46を4車線化した際の古い水路が残っていた部分があり推進できないことが判明した。道路管理者の国土交通省と協議し、上から掘って古い水路を撤去して推進を再開し、令和4年度に完了した。

【齋藤委員】場所はどこか。うまく機能しているのか。

【五十嵐主幹】土日ジャンボ付近の薬王堂さんとキャタピラーの間の信号のところが横断箇所。今年度は7月に警報級の大雨があったが、比較的スムーズに内水が排除できたことを鑑みると一定の効果があったと考える。上流側の断面に関して改修が終わってないので、今年度設計を行い来年度以降改修することにより、よりスムーズに排水できる。

【山田委員】どのような設計基準があるのか。

【五十嵐主幹】盛岡広域都市計画により盛岡広域で同一の計画となっており、8年確率、時間にすると37ミリで計画されている。局地的に降ると厳しいが、滝沢市の特性として、ある程度勾配がある土地が多く、比較的河川までの排水はスムーズに流れる。今のところは、大きな内水被害は発生していない。

【齋藤委員】雨水排水で他にやらなければならないところはあと何箇所あるか。

【五十嵐主幹】菓子地区については考えなければならない。菓子川自体の改修はなかなか事業化するのが難しいため、別の方向で検討していきたい。滝沢駅前地区についても幹線の整備を考える必要がある。

【田村武委員】処理区域内人口が929人減少しているが、汚水処理区域内というのは宅地造成している地区があって下水が入っていて汚水処理ができるとこ

るという考え方か。それとも浄化槽が入っているところも含まれるのか。

【黒澤総括主査】資料3の3ページ処理区域内人口がこのとおり38,963人になっているが、これはあくまでも公共下水道の区域である。

【田村武委員】これだけ減っているということは、宅地が減っているということか。

【黒澤総括主査】一概に1件ずつ調べてないが、往々にして全体的に人口は減っている。あるいは滝沢市のなかでの転居、滝沢市内外の転出転入が総じてこのようなかたちになっている。こういう数字は、令和5年3月31日時点での数字の押さえ方であり、数字が正確かということ、統計的なずれは生じてくる。

【田村武委員】滝沢市の人口は全体として減っていないのに、汚水処理区域の人口が減って下水道の方に収支として影響してくる。空いているところに住んでもらうといった課題もあると思うが、そういった外部の部分は、下水道事業だけの問題ではないと思うが、市としてどのように考えているか。

【下水道課長】今の部分に関しては、確かに逆にいうと人口比率の多い市街化区域に関して、非常に大きく処理区域内人口が減少していると推察される。ただ、単年度だけ見てるので、これが長期的にならないところあるが、現実的にいえることは、空き家が増えている傾向にあるということ。近傍では、盛岡市松園でも同じことをいわれており、都市政策課がやっている空き家対策や、リフォームブームにおいて空き家がなくなるように処理区域内は推移していけばよい。下水道課においては、積極的に政策が持てないところはあり、都市政策課の空き家対策と一緒にやっていかざるを得ない。

【上下水道部長】下水道区域に関しては、面的に整備をして污水管をいれているので、令和9年度からの改築計画の中で、長期的に見れば一部の管については、更新をせずに次の段階では、この浄化槽への転換というのは、かなりの長期的な考え方によっては、一律に管を更新していくのではなく、公共下水道から浄化槽というのも一つの考え方としてある。費用をかけてメンテナンスして改築しても住む方がいないと意味がなく、5年10年でなく、将来的にはそのような方向も市街化区域といえども検討しなくてはいけないと考える。

【田村武委員】積立金に関して、将来的な管の布設替えのために役立てるということだが、この本管を入れてるところの人口が減ってきているのに直すだけの予算をとるとするのは、バランスが悪いのではと思う。いかに集約して、人口を減らさないようにしていくかというのも一つの課題として考えられるがいかが。

【上下水道部長】市街化区域と市街化調整区域という点では、将来的な更新については、幹線の部分の更新をまず当然行うが、集約という部分については、施策の中で人口を集中させるのは難しいので、その管の重要性と全て管がまとまっている道路の重要性という部分で、更新投資をする路線を選定していかなければならないと考える。改築工事に当たっては国の補助金等を活用しての更新でなければ難しいので、期間はかかるが財源を確保した上で改築工事を行っていく。

【山田会長】田村委員が話しているのは、上下水道の審議会だが、都市計画の中で下水道事業を促進していくためには、せっきく整備したインフラをもっと有効に使っていくべきで、そのための誘導的な何か施策を都市計画に反映できるのであれば、もっと推進していくべきではないかという趣旨になるかと思う。つまり、市側が単純に抱えている責任や役割はもちろん理解するが、上下水道だけで経営が安定する施策でいいのかと思うので、他のビジョンや計画、施策作りの中で、ぜひ上下水道の意見を反映させるような提案を進めていただきたい。

ウ 令和5年度滝沢市下水道事業の進捗状況について（下水道資料5）

【山田会長】「技術力向上と専門的知識の蓄積による技術継承など人材の育成に努めます」とあるが、どのようなモニタリングを通して実施、評価がなされるのか。

【黒澤総括主査】指標では、下水道管路のための業務指標PIというものがあり、業務体制における、職員の研修内容や不明水をグラフ化、デジタル化できるものを当てはめながら、ある程度、数字的に見える化して、モニタリングできるようにしていきたい。

【山田会長】そのようなことであればそれに対応する結果をこの資料に示していただいた方が理解しやすい。掲げている内容と表示に足りないところがあるので、今後の資料作成に生かして欲しい。

（2）審議事項

以下のアの審議事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった

ア 令和6年度滝沢市下水道事業会計予算基本方針について（下水道資料6）

【熊谷委員】4ページ合併処理浄化槽事業関係の合併処理浄化槽設置補助事業の単価について、例えば5人槽を設置した場合、39万円かかるという意味か。

【黒澤総括主査】設置した際の工事費は、おおむね70万円から100万円前後で、これは、あくまでも設置した際の国が定めた補助分、補助額という意味。

【新田委員】2ページの主な取り組みについて、前回の審議会でも問題となったが、この不明水対策を含めた下水道施設の適正な維持管理とあるが、どんなことを対策、対応するのか。

【黒澤総括主査】下水道に入ってはいけない水というものがあるが、雨水がマンホールの中から流れ込むものなどあり、汚水処理コストを増大させるため、これを防いでいくという中で不明水対策ということばの定義がある。今年度は、すでに計画を策定する業務に着手している。今までもマンホールに亀裂があるところは順次、改築するなど、様々な面から不明水対策につながることを実施している。

【山田会長】その結果、令和6年度主な事業の工事の中でどれが不明水対策に直接影響するのかというところを答えて欲しい。

- 【黒澤総括主査】令和6年度は不明水対策に直結した工事は難しいと考えている。令和5年度にある程度の基本計画、令和6年度に実施計画のようなもので全体の事業費やボリュームを計る年度とし、現場の工事にあたるのは、早くても7年度以降と見立てを立てている。
- 【山田会長】例えば鶴飼西地区のマンホール工事は劣化した工事なのか、雨水の侵入を防ぐためのマンホールを取り付ける工事なのかと考えたときにどちらなのか。
- 【下水道課長】鶴飼西地区のマンホール蓋交換は、耐用年数による交換。穴あきマンホール蓋交換には該当はしていない。
- 【新田委員】かなりの比率があったので、よろしくお願ひしたい。
- 【山田会長】どこを直さなければならないのか見極めるための調査が中心だと思うので令和7年度頃から着手できそうだとということで、できるだけ早く着手できるよう努力をしてください。
- 【齋藤委員】前回あたりの審議の中で不明水がかなりの量出ており、その負担はどうなっているのかという質問に答えてないと思うので、どういう仕組みでお金を支払っているのか。令和4年度監査報告の中で経費回収率に触れられており、いる部分がありその対策はあるか。経費回収率に言及しなくてよいか。
- 【下水道課長】不明水対策について、支払い関係の流れであるが、汚水処理を処理する経費が大きい。都南処理場があり盛岡市、滝沢市、雫石町、矢巾町の汚水が集まって処理し、それぞれの流量があり、不明水が多くなってくると全体的に比率が増すので、現実的にどのくらい影響するかは、不明水対策をやってみないと分からない。
- 【齋藤委員】使用料単価で支払っているのか。按分なのか。
- 【下水道課長】現状では按分である。滝沢市は、細かい数字捉えてないが、20%程度での按分と捉えている。
- 【齋藤委員】按分であれば各市町村が同じくらいの不明水が出ているとすると、丸々支払うことになっていないということか。
- 【下水道課長】そういうかたちになる。
- 【齋藤委員】按分であっても早めに水量を減らしたほうがお金がかからなくてよいのでは。
- 【下水道課長】不明水対策は早くやっつけていかなければならないと感じている。経費回収率については、監査の指摘として受けてはいるが、若干上昇傾向にあるので100を超えていけると予測はしており、100を目指す経営を考えている。
- 【齋藤委員】経費回収率の向上の一つに、不明水対策があるのではないかと考えている。令和6年度の施策の中で経費回収率の向上という部分を少しでも入れたほうがいいのではないかと意見。
- 【下水道課長】分かった。その部分については、不明水対策と結びつけ、経費回収率の向上を図るような目標と変えるよう、検討したい。
- 【齋藤委員】先ほどの不明水についてよく分からなかったが、周辺の市町村の状況

について早めにお知らせしてもらえると、不明水についての理解度も進み、対策も分かってくると思うので資料の提供をお願いしたい。

【下水道課長】わかった。

【山田会長】主な事業は決まっているので、方針と事業内容が適切であれば特に問題ないだろうと解釈したい。質疑等ほかになれば（２）審議事項ア令和６年度滝沢市下水道事業会計予算基本方針については了承といたしたいと思いますがご異議ございませんでしょうか。

【委員一同】異議なし。

【水道事業】

（１）報告事項

以下のア及びイの報告事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

ア 令和３年度滝沢市水道事業会計決算について（水道資料１～４）

【関委員】水道資料１決算概要資料４ページの上下水道事業広報誌ちやぐ水だよりについてあるが、実際に読んでみて市長のインタビューや４コマまんがなど市民の皆さんにより見ていただけるような工夫がされてあって改善されていると感じた。

【山田会長】水道資料１の５ページ、管路の耐震化率の目標の数字が達成できていない状況だが何か要因があったのか

【水道整備課長】水道資料２決算書の１８ページ、配水管整備費の令和５年度へ繰越というものが、令和４年度に工事が完了せず令和５年度に繰越したもの。令和５年度で解消される予定である。

イ 令和５年度滝沢市水道事業の進捗状況について（水道資料５）

【水道整備課長】水道資料５の２ページ「盛岡市と滝沢市の相互連絡管を使用した応援給水訓練を行いました」とあるが、未だ実施できておらず、今年度できないと思われるため記載から削除をお願いしたい。

【山田会長】２ページの広域連携について、以前あった周辺市町村からの経営審議会へのオブザーバー参加は今後無いのか。

【水道総務課長】組織の目的が変わったということもあり今後ないかと思う。

（２）審議事項

以下のアの審議事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

ア 令和６年度滝沢市水道事業会計予算基本方針について（水道資料６）

【熊谷委員】２ページに水道施設の「適正化」と水道施設の「最適化」とあるが、言葉の使い方で違いはあるか。

【長谷川総括主査】意図としては、能力を維持していく「適正化」、今後の需要に

合わせた最適なかたちを「最適化」といった表現で使用した。

【熊谷委員】柳沢低区浄水場の表流水処理停止は良かったと感じた。4ページ断水範囲の縮小について良い取組だと思った。

【水道整備課長】過去に入れた管は300メートルなり仕切弁がないということがある。全部断水してしまうので迷惑かける世帯が狭まるということでやっている。

【山口委員】組織再編で職員数は変わらないか。

【上下水道部長】人数については明確には分からないところ。課題である技術の継承という部分で、集約することによって人員は減らさずに技術職員を配置するというもの。

【山田会長】柳沢低区の処理停止により地下水率100%になるのか。

【水道整備課長】柳沢方面についてはそのとおり。来年度は地下水比率が上がる。

【山田会長】滞留水排水の強化について、以前のアンケート調査から一部の区域から水道水がおいしくないという意見への対応として行うということか。

【水道整備課長】一本木配水系だったと思われるが、全体的に末端部分はどうしても滞留してしまうので行うということ。

【熊谷委員】末端で滞留すると塩素濃度はどうなるか。

【水道整備課長】最初は少し高くなる。最後はゼロになります。

【山田会長】質疑等ほかになれば(2)審議事項ア令和6年度滝沢市水道事業会計予算基本方針については了承といたしたいと思いますがご異議ございませんでしょうか。

【委員一同】異議なし。

5 その他

【齋藤委員】資料の作り方について、審議会で何を話し合えばよいかわかりやすいように、要点をまとめたものを添付するなど工夫してほしい。

【高橋総括主査】資料の作り方に関しては検討する。

【黒澤総括主査】配布した滝沢市下水道事業経営戦略の見直しスケジュール案について、前回までは経営戦略とアクションプラン、料金の見直しについて3月までを見込んでいたが、使用料の改定を見送るため、経営戦略として12月の今回が最後ということで、できれば1月に答申案と答申をお願いする修正案として説明した。

【山田会長】日程は決まってるか。

【黒澤総括主査】今回、おおむね経営戦略について意見ないと承り、答申案と答申については、会の開催を持たず、書面決議としたいと考えている。

【山田会長】集まらなくてよいということか。

【黒澤総括主査】そのとおり。

【山田会長】一応確認だが、審議等日程のところに1月中旬開催とあるが削除ということでしょうか。

【黒澤総括主査】そのとおり。

6 閉会


上下水道部長より挨拶。

この議事録は書記の記載したものであるがその内容が正確であることを証するためにここに署名する。

令和 6 年 1 月 16 日

滝沢市上下水道事業経営審議会

会 長 山 田 一 祐 

署名委員 関 晴 貞 

署名委員 熊 谷 稔 

